

112 学年度第一学期ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座
「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」シリーズ講座 (11)
テーマ：「経済社会開発とグローバル人材育成」
～日本とスリランカの事例から考える～

Ananda Kumara 教授 (第十一講座 / 要約)

2023.11.23

日本は、アジアにおいて技術および経済発展の先進国であり、現在、日本企業は世界各国でさまざまな製品を生産・販売しています。しかし、近年、人口の高齢化、出生率の低下、労働人口の減少などの原因で、日本の人口はさまざまな制約に直面しています。それと同時に急速なグローバル化に対応するために教育プログラムが再編されて、学生がグローバル社会で役立つ新しいスキルを身につけることができるように取り組んでいます。

また、労働力不足のため、日本は外国人労働者の受け入れに焦点を当てており、日本の外国人労働者は主に2つのタイプがあります。1つは日本社会の国際競争力を高めるための先進技術を持つ外国人であり、いわゆる「高度人材資源」です。もう1つは「特定技能」を持つ外国人を育成することで日常生活での労働力不足（「実習生制度」の移動労働者）問題を解消します。

一方、グローバル化の現象は、スリランカのような開発途上国にはさまざまな程度で負の影響を与えています。開発途上国の技術、財政リソース、経済発展は限られています。スリランカでは、工業の発展には長期的なビジョンがほとんどありません。政府が出した人材育成政策と持続可能な社会の構築とは関係がなく、大学卒でも仕事を見つけるのは難しいです。昨年起きた大規模なデモは失業率の上昇がその根本的な原因です。

このような状況下、スリランカで初の IT 関連大学が日本の企業によって設立されました。初代学長には Ananda Kumara 教授が就任し、スリランカの高等教育システムを通じて、長期的に経済発展に貢献するための人材を育成することを目的としています。この大学の特徴は、学生が IT の勉強だけでなく、日本社会への理解を深め、将来日本での仕事に必要な日本語能力を向上させるこ

とです。卒業後、学生たちは日本企業での就職を見込んでいます。将来、日本は IT 分野でのネットワークを活用し、スリランカへの外国投資を進める予定であり、これはスリランカの持続可能な発展に貢献する新しいモデルになるのです。この講義では、日本とスリランカのグローバル人材育成の特例を通じて、経済発展に関連する人材育成についてどのように考えるかについて討論します。

中国語まとめ 徐興慶

日本語翻訳 陳順益

2023. 11. 27